

## 特別展「いつだって猫展」仙台展 開催要項（案）

1. 名称： 特別展「いつだって猫展」（仮称）

2. 趣旨：

猫は古来より日本人が愛玩し、我々の暮らしに寄り添ってきた動物である。そのため人との関わりのなかで語られ、あるいは絵画に描かれてきた。特に江戸時代後期には現代と同じように「猫ブーム」がたびたび到来し、日常の可愛らしい仕草をする猫はもちろん、怪談話の化け猫や擬人化された猫など、様々な猫が浮世絵や絵入り本に登場した。また、幕末以降、猫が福を招くという俗信から、各地で招き猫の土人形が盛んに作られている。本展では、こうした江戸時代から明治時代にかけて巻き起こった「猫ブーム」の諸相を浮世絵や版本、土人形などを通して紹介する。

東北地方の人々は、猫を有益な動物として大切にし、猫を祀る猫神社や猫の石碑を建てるなどしてきた歴史があり、猫と人とのつながりが深い地域といえる。本展では東北地方における猫に関係する史跡や当館所蔵の猫が描かれた絵画についても紹介する。なお、本展は全国巡回展であり、これまで名古屋市博物館や京都文化博物館等で開催され、当館は5番目の会場となる。

3. 主催（予定）： 展覧会実行委員会（仙台市博物館・ミヤギテレビ）

4. 後援（予定）： 在仙マスコミ各社

5. 会期（予定）： 平成 31 年 4 月 19 日（金）～6 月 9 日（日） 開館日数 46 日間

休館日 毎週月曜日（ただし、4 月 30 日（月）は開館）

開館時間 9:00～16:45（入館は 16:15 まで）

7. 会場（予定）： 仙台市博物館 企画展示室

8. 観覧料（予定）： 一般・大学生 1,300 円（前売 1,100 円）、高校生 700 円、小・中学生 500 円

9. 展示構成案：

第 1 章 江戸の暮らしと猫

第 2 章 化ける猫

第 3 章 人か猫か、猫か人か

第 4 章 福を招く猫

第 5 章 おもちゃ絵になった猫

10. おもな展示資料案： 総件数 206 件

「猫鼠合戦」（月岡芳年）、「猫の妙術」（歌川国芳）、「新田猫」（新田道純）、「女三宮」（歌川国貞）、「園中八せん花 菊」（歌川国芳）、「名所江戸百景 浅草田甫西の町詣」（歌川広重）、「五拾三次之内 岡崎の場」（歌川国芳）、「荷宝蔵壁のむだ書」（歌川国芳）、『朧月猫の草紙』（山東京山作・歌川国芳画）、「流行猫の曲鞠」（歌川国芳）、「小猫をあつめ大猫とする」（歌川芳藤）、「丸メ猫」、「堤人形 招き猫」、「伏見人形 親子招き猫」、「新ばん猫世帯ままこしらへ」（歌川国梅）

11. 関連イベント：

記念講演会、しろ・まち講座、招き猫絵付けワークショップ、ミュージアムセミナー、友の会広報セミナー、プレイミュージアムイベントなどを予定

12. 印刷物： B2 ポスター、B3 ポスター、A4 チラシ、招待券、前売券、観覧券

※図録は『いつだって猫展』を販売（予定）

13. 予算： 29,000 千円（仙台市の負担金 12,000 千円）